

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H06336

研究課題名（和文）移行期正義論・紛争解決学を応用した東アジア歴史認識問題解決の思想基盤構築

研究課題名（英文）wakaigaku

研究代表者

梅森 直之（UMEMORI, Naoyuki）

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：80213502

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 28,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、東アジアにおける歴史認識をめぐる紛争の激化という状況を背景に、和解学という新しい学問を創設し、その思想的・理論的意味を明らかにすることにあった。本研究は、研究代表と研究分担者の成果を、和解学叢書第1巻『和解学の試み：記憶・感情・価値』ならびに第2巻『アポリアとしての和解と正義：歴史・理論・構想』として公刊し、和解学の意義と特質を、4つのテーゼとして公表した。合わせて本研究では、東アジアにおける和解の意義を国際的に発信するための国際共同研究体制の構築を行い、2020年度の国際和解学会の創設を導いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

和解学という新しい学問分野を提案し、東アジアの歴史和解に対する思想的・理論的関心を高めることができた。本研究は、1)和解という現象の重層的な性格、2)和解をめぐる実践知の意義と必要性、3)和解をめぐる東アジア的文脈の固有性（戦争責任と植民地責任の連続性、冷戦や一神教的基盤の不在に由来する和解をめぐる対話の困難さ）、4)東アジアにおける和解のグローバルな貢献の可能性を、学術的に明らかにすることにより、東アジアにおける和解を、国境を超えた対話を通じて実践していくためのプラットフォームの構築に貢献した。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to establish a new academic field called Reconciliation Studies and clarify its philosophical and theoretical significance in the context of escalating conflicts over historical perceptions in East Asia. This research resulted in the publication of the achievements of the director and the research collaborators in two volumes of the Reconciliation Studies series: Volume 1, "An Attempt at Reconciliation Studies: Memory, Emotion, and Values," and Volume 2, "Reconciliation and Justice as Aporia: History, Theory, and Project." The significance and characteristics of Reconciliation Studies were presented as four theses in those works. Additionally, this study established an international collaborative research framework to disseminate the significance of reconciliation in East Asia internationally, leading to the founding of the International Association for Reconciliation Studies in the 2020 academic year.

研究分野：Political Science

キーワード：和解学 記憶研究 紛争解決学 政治思想 国際関係論 精神分析 歴史学

1. 研究開始当初の背景

戦争や植民地支配という歴史に由来するさまざまな紛争が東アジアにおいて顕在化しており、それに対する有効な対策が打ち出せていないという状況が、2017年、本研究を開始した当初の社会的背景であった。本研究の研究代表である梅森直之は、それ以前に、東アジアにおける歴史和解のための総合的研究(基盤研究A 2015-2019)の研究代表者として、また、大学の世界展開力強化事業(文科省補助金事業 CAMPUS ASIA 2016-2021)のディレクターとして、東アジアにおける和解の探究に、研究と教育の両面から、学際的・実践的な共同研究を積み重ねていた。本研究の開始当初に求められていたのは、東アジアにおいて積み重ねられてきた和解をめぐる多様な考察と実践を体系化し、その思想的・理論的意味を掘り下げ、その成果を国内外へ積極的に発信することであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「和解学」という新しい学問領域を構想し、それに理論的・思想的な基礎づけを与えることにある。和解学とは、広義には、「和解」という現象に関連した知的・実践的活動を対象とする学術的考察を意味している。本プロジェクトの課題は、現在において和解という問題が顕在化している理論的・歴史的文脈を明らかにし、そこで提起された問題を整理した上で、それに応えうる知的・実践的活動の構想を、協議の和解学として提示することであった。

本研究は、新学術領域研究(研究領域提案型)「和解学の創成—正義ある和解を求めて」を構成する思想理論班のプロジェクトである。新学術領域研究全体は、本研究の推進母体である思想理論班のほかに、もっぱら政府レベルの和解を取り扱う政治外交班、研究者レベルの和解を考察する歴史家ネットワーク班、市民レベルの和解を主題とする市民運動班、大衆文化に表出された和解を主題とする和解文化記憶班の計5つの研究グループにより構成される。思想理論班の研究の目的は、それら他研究班によって主題化された、多様なアクターによる多様な実践をもとに、和解に関する理論構築を行うこと(図1)、またそれに基づき、各領域における具体的な和解実践の意義を、明確化させていくことであった(図2)。

図1

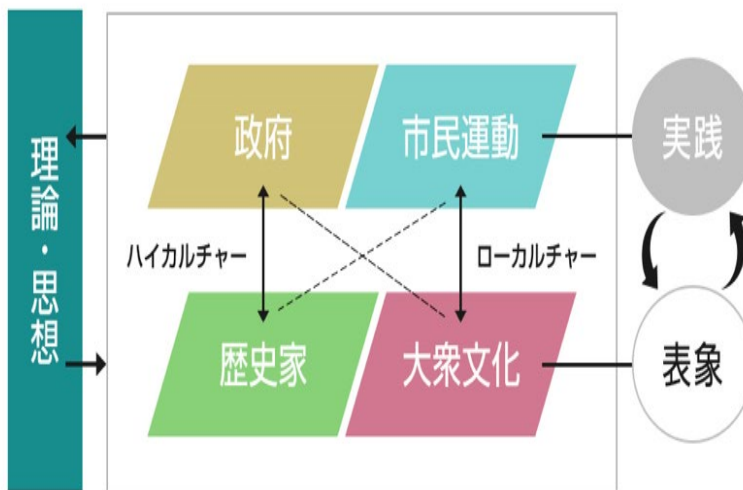
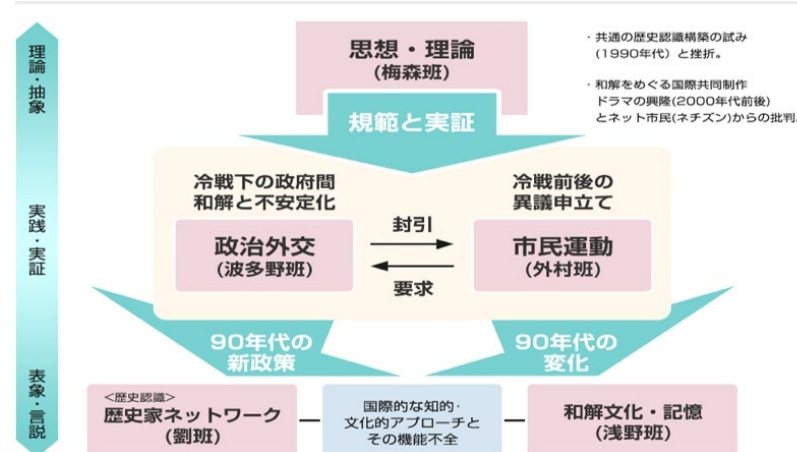


図2



本研究は、和解学を、「東アジア発の紛争解決学」と位置づけ、その意義を明確化することに注力した。より具体的には、i) 欧米発の紛争解決学や平和学の成果に学びつつ、儒教や仏教などのアジア的な宗教的 理念と紛争・和解との関連を思想的に探求し、あわせて東アジア型近世秩序から近代的な国際法体系への移行の意味を理論的に検討することで、東アジア型「和解学」の思想的・理論的基礎を確立する、ii) 現在世界的に和解推進の基準となっている移行期正義概念を批判的に検討し、移行期正義の東アジアにおける適用可能性をネーションの形成と展開の歴史とともに探究することで、移行期正義の東アジア・モデルを創造する、iii) 実証的な 歴史学の方法論では対処しきれない記憶の噴出という現在の東アジアの歴史認識問題を理論的に検証し、記憶と感情の多層的次元を解明する新しい歴史の基礎理論を構築する、ことを目的に共同研究を推進した。

3. 研究の方法

本研究の方法論的特徴としては、以下の点があげられる。

1) 学際性

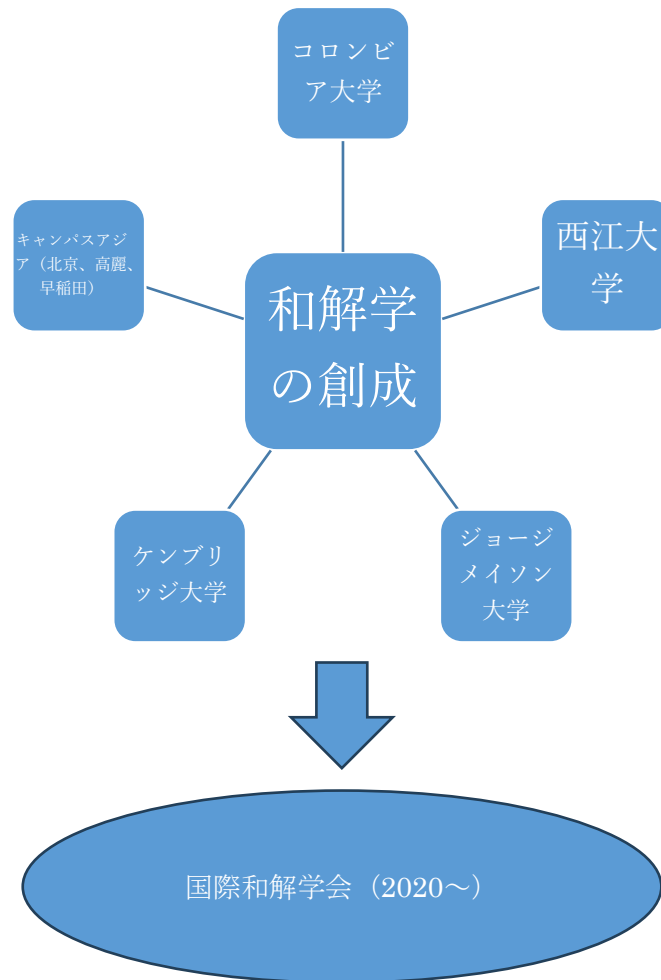
和解という現象は、紛争と同じく、人間の社会生活を構成する基本的な実践の一部である。人はつねにすでにさまざまなかたちで和解にかかわり、それについての考察と経験を積み重ねている。本研究では、和解という現象を、このように広義に理解し、既存のさまざまな学問分野における知見を総合化・体系化し、和解という現象を多様な視座から分析するフレームの構築をめざして、共同研究を推進した。

研究の遂行にあたっては、多様な分野で業績をあげている研究者を研究分担者として招聘し、ワークショップ、シンポジウムを重ねることで、既存の学問分野の枠を超えた対話を実現し、和解という現象の多面的・重層的探究を進めた。その際、とりわけ重要なフィールドとなったのが、i) 哲学・政治思想、ii) 国際法・国際関係論、iii) 歴史哲学・記憶研究、iv) 紛争解決学・教育学の各分野であった。それら多様な専門を有する研究者が、他分野の研究者と議論を重ねることで、既存の学問分野でこれまで蓄積されてきた和解をめぐる考察を、和解学という新しい学問分野へと体系化することを試み、またそれが、既存の学問分野とどのように異なるのかを明確化することを行った。

2) 国際性

「東アジア発の紛争解決学」という和解学の規定にみられるように、本研究では、紛争解決学をはじめとするさまざまな学問分野の研究者と、国際的な共同研究を推進することにより、東アジアにおいて積み重ねられてきた和解をめぐる思索と実践の特質を明らかにし、その意義を国際的に発信することを試みた。より具体的には、本研究は、以下の国際共同研究と密接な研究交流を行い、研究の国際化と国際的な情報発信に多くの示唆をえることができた。i) コロンビア大学、キャロル・グラック教授を中心とするグローバルメモリー研究プロジェクト、ii) 西江大学、林志弦教授を中心とするトランスナショナルヒストリー研究所ならびにグローバルイースト研究プロジェクト、iii) ジョージメイソン大学、カリーナ・コレステリーナ教授を中心とする紛争解決学プログラム、iv) ケンブリッジ大学、バラク・クシュナー教授を中心とする東アジア研究プロジェクト、v) イエナ大学、マーティン・ライナー教授を中心とする国際和解学研究所、vi) 早稲田大学・高麗大学・北京大学によって推進されたキャンパスアジアプログラム(第2モード) などである。

また本研究は、国際学会への参加を通じて、国際的な研究動向をフォローアップし、情報収集と情報発信の両面で活用することを試みた。本研究の遂行にあたっては、数多く存在する国際学会のなかで、以下の2つの学会を、本研究の内容ととりわけ深い関係を有するものとして重視した。i) 記憶研究学会 (Memory Studies Association: 2016 年創立)、ii) 国際和解学会 (International Association for Reconciliation Studies; 2020 年創立)。これらの学会は、いずれも創立後まもない国際学会であり、現在急速にその会員数を伸ばしている。こうした国際学会の創設と影響力の増大そのものが、歴史和解という本研究の主題に向けられた国際的関心の高まりを示すものとなっている。



3) 実践性

東アジアにおける歴史和解は、思想的・理論的探究を必要とする学術的課題であると同時に、その実現が求められる、現在の実践的課題でもある。本研究では、歴史和解を実現するための具体的な方法として、東アジアの大学生を対象とする歴史教育プログラムを構想し、それを実践することにより、教育を通じた歴史和解の可能性を模索した。こうした教育的実験・実践の舞台となったのが、大学の世界展開力強化事業（文科省補助金事業 CAMPUS ASIA 2016-2021）である。本プログラムは、「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成」を目的に、早稲田大学、高麗大学校、北京大学が、共同で教育カリキュラムを策定し、実践することを目的とするものであった。本研究の研究代表者である梅森直之と分担研究者である小山淑子は、ともにキャンパス・アジア・プログラムの責任者として、当該の教育カリキュラムの策定と運営にあたった。その結果、本研究の成果を、具体的な教育カリキュラムへ速やかに反映させることが可能となり、同時に、教育の現場で顕在化した諸問題をフィードバックし、その思想的・理論的意味を検討する研究体制が整った。

4. 研究成果

本研究の成果としては、以下のことがあげられる。

1) 研究成果の公刊

国際先導研究全体の研究成果を、和解学叢書（全6巻、明石書店、2021年～2023年）として公刊した。本叢書のうち、研究代表の梅森直之が、第1巻の『和解学の試み：記憶・感情・価値』の第1章として、「方法としての「和解学」——紛争解決学の東アジア的基礎」を執筆し、和解学という新しい学問分野の性格づけと、その方法論的基礎づけを試みた。また思想理論班全体の研究成果としては、叢書第2巻として、『アポリアとしての和解と正義：歴史・理論・構想』を公刊した。以下本研究の具体的成果として、本叢書に収録された研究論文の概要を説明する。

梅森論文は、和解学の基盤となった紛争解決学が登場するにいたった歴史的文脈を、その発祥の地である欧米の歴史的経験に即して明らかにすることで、東アジア発の紛争解決学としての和解学の意義と特質を明確化することを試みている。同論文は、欧米発の紛争解決学が、東アジアに置き直されるときに生ずる意味変容を検討し、東アジア固有の歴史的文脈が、紛争解決学の単純な適用を困難にしている点を明らかにした。また同論文は、ハンナ・アーレントの『活動

的生』の議論を参照しながら、「制作としての和解」と「行為としての和解」という新たな分類法によって、東アジアの歴史和解をめぐる議論の混乱を整理することを提案した。さらに同論文は、東アジアという歴史空間を考察の中心において和解を議論することで得られる新たな知見は、欧米の紛争解決学の発展にあたって、重要な貢献をなす点を明らかにした。

本叢書第2巻には、本研究に参加した分担研究者の10本の研究論文を収録した。哲学、心理学、精神分析、教育学、紛争解決学、国際関係論、政治思想、歴史学、東洋思想史、日韓関係論、外交史、社会学など、多様なジャンルで活躍する個々の研究者が、「和解」を共通のテーマとして設定し、議論を重ねてきた成果が、本巻の刊行により示されることになった。本巻は、「和解と記憶」、「和解と正義」、「和解と歴史」、「事例としての日韓関係」の4部構成をとり、和解という現象を、理論と実証の両面から多面的に分析している。本巻を構成する個々の論文のあいだには、つながりと補完の関係に加え、「不協和音」もまた残り続ける結果となった。それに関して本研究は、そうした「不協和音」に耳を澄ますこと自体が、和解学を抑圧的・暴力的なものとならないための必要な条件とみなす立場をとっている。

本研究では、こうした研究成果を、以下の4つのテーゼのかたちに要約し、情報発信をおこなった。

i) 和解学とは、重層的・学際的な実践である。和解学は、紛争や和解を、国家をめぐる事象に限定することなく、むしろ多様な次元で発生する紛争と和解を分節化し、その相互のつながりを焦点化することを試みる。

ii) 和解学は、規範と実践の両次元を含む。和解学は、和解をめぐる理論的な考察であると同時に、和解を速やかに実現することを通じて、当事者の痛みを軽減するための実践知であることを忘れてはならない。

iii) 和解学は、東アジアのローカルな経験に立脚した学問的探究である。現在の東アジアにおける歴史認識問題の背景には、①戦争責任問題と植民地責任問題の密接な絡み合い、②冷戦下の国際関係を反映した加害国（日本）と被害国（台湾、韓国、北朝鮮、中国）との対話の不在という問題が存在する。東アジアにおける和解の探究においては、こうした東アジア固有の歴史的文脈の考察は不可欠である。

iv) 和解学は、地域を超える比較と関係の学知である。東アジアは、ヨーロッパとの対比において、「和解」の後進地域であるかのようにみなされてきた。しかし視点をかえれば、そこには、東アジアで積み重ねられてきた植民地責任をめぐる議論の厚み、ユダヤ・キリスト教的な宗教的基盤を共有しない地域での和解をめぐる実践の試みなど、ヨーロッパをはじめとする他地域にとっての参照点となりうる価値もまた存在している。

2) 国際共同研究体制の構築

和解学創成のために、ワークショップやシンポジウムの形式で積み重ねて来た国際共同研究体制構築のための努力は、2020年の国際和解学会(International Association for Reconciliation Studies)の創設として結実した。その創立大会には、本研究グループのメンバーも参加し、国際共同研究の基盤を強化することができた。また、2021年には、同国際学会の世界大会を、早稲田大学にて開催し、本研究グループのメンバーも参加した。

『和解学叢書』の出版ののち、海外研究者からのフィードバックを得ることを目的に、多くのワークショップやシンポジウムを実施した。その主たるものが、以下の事例である。臧志軍(復旦大学国際関係与公共事務学院教授)を中心とする復旦大学とのワークショップ(2023年6月、早稲田大学)、Kwak, Jun-Hyeok(中山大学哲学部教授)を招聘したワークショップ(2023年7月、早稲田大学)イム・ジヒョン(西江大学教授)を基調講演者とする国際シンポジウム(2023年11月、早稲田大学)、マーティン・ライナー教授(イエナ大学)との共同ワークショップ(2024年1月)、キャロル・グラック(コロンビア大学教授)への聞きとり調査(2024年3月、早稲田大学)、ジョージメイソン大学におけるピースウィークへの参加ならびにカーリーナ・コレステリーナ同大学教授への聞きとり調査(2024年3月)。

こうした国際共同研究体制の構築への努力は、ケンブリッジ大学、イエナ大学、ジョージメイソン大学をパートナーとする若手研究者の共同育成プログラムの構想へと発展した。本構想は、2023年度の科学研究費助成事業国際先導研究「普遍的価値と集合的記憶を踏まえた国際和解学」(代表浅野豊美)として採択された。本研究の代表者である梅森直之も、引きつづき、同国際先導研究のサブグループの研究リーダーとして参加し、本研究のさらなる国際展開のために責任を負うこととなった。

3) 教育プログラムへのフィードバック

本研究の知見を、具体的な教育プログラムへとフィードバックし、国際共同教育プログラムとして実践した第2モードのキャンパスアジアについては、その具体的な成果を発信すべく、現在、梅森直之と小山淑子の共著で、書籍出版の準備を進めている。また、同書には、実際にプログラムに参加した学生も、その編集に参加する予定である。こうした本研究の具体的な教育実践へのコミットメントは、その展開に大きな期待を集めることになり、キャンパスアジアの第3モードとして、小山淑子がディレクターをつとめる「文明間対話促進のための文化的知性を備えたソーシャルイノベーター共同育成プログラム」(2022年度～、北京大学、高麗大学、南洋理工大学と連携)として発展的に継続している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Koyama Shukuko	4. 巻 16
2. 論文標題 The potential of transnational history education: Attempts at university teaching practice in East Asia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Memory Studies	6. 最初と最後の頁 1663 ~ 1670
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/17506980231204203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uesugi Yuji	4. 巻 43
2. 論文標題 Anomalies in Collective Victimhood in Post-War Japan: 'Hiroshima' As a Victimisation Symbol for the Collective National Memory of War	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 War and Society	6. 最初と最後の頁 44 ~ 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/07292473.2023.2273034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土佐弘之	4. 巻 211
2. 論文標題 プラネタリー・ヘルスの危機と新たな開発原病 : 健康/病気の政治に関する一考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際政治 / 日本国際政治学会 編	6. 最初と最後の頁 107-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土佐弘之	4. 巻 50-6,
2. 論文標題 再領土化 (バックラッシュ) の地政学的衝突という悲劇 ウクライナ危機をめぐる錯視について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 99-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野尻 英一	4. 巻 47
2. 論文標題 記憶と弁証法 : 記憶と想像力の政治経済学批判序説 <1>	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪大学大学院人間科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 205 ~ 224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/79076	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野尻 英一	4. 巻 48
2. 論文標題 構想力と人間 : 記憶と想像力の政治経済学批判序説 2	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪大学大学院人間科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 67 ~ 88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/86862	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nojiri Eiichi, Takase Kenkichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Understanding Sensory-Motor Disorders in Autism Spectrum Disorders by Extending Hebbian Theory: Formation of a Rigid-Autonomous Phase Sequence	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Perspectives on Psychological Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/17456916231202674	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 最上敏樹	4. 巻 2022年6月号
2. 論文標題 ウクライナに耳を澄ます -最後の征服戦争 上	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 みすず	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 最上敏樹	4. 巻 2022年7月号
2. 論文標題 ウクライナに耳を澄ます - 最後の征服戦争 下	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 みすず	6. 最初と最後の頁 .2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松谷基和	4. 巻 19
2. 論文標題 三・一独立運動における「万歳」の歴史的意味：朝鮮王朝への「挽歌」と近代的ネイションとしての朝鮮の「産声」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 韓国朝鮮の文化と社会	6. 最初と最後の頁 41-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上杉勇司(with Karina Korostelina)	4. 巻 21-1
2. 論文標題 Japanese Perspective on Korean Reunification: An Analysis of Interrelations between Social Identity and Power	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian International Studies Review	6. 最初と最後の頁 47-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上杉勇司	4. 巻 54
2. 論文標題 普天間飛行場の返還を阻む構造的要因の考察：日米軍事戦略の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 91-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 UMEMORI, Naoyuki	4. 巻 -
2. 論文標題 A Topography of Japanese socialism: Kotoku Shusui and Global Justice	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hugo El Kholi and Jun-Hyeok Kwak eds., Global Justice in East Asia, Routledge	6. 最初と最後の頁 171-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松谷基和	4. 巻 827
2. 論文標題 三・一運動における「キリスト教徒」と「教会」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 44-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 最上敏樹	4. 巻 -
2. 論文標題 マルチラテラリズムの再定位：序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 柏木昇ほか編『日本とブラジルから見た比較法 二宮正人先生古稀記念』信山社	6. 最初と最後の頁 387 - 407
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤純一	4. 巻 1140
2. 論文標題 公共とデモクラシー：決定の「正しさ」をめぐる判断の政治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 7-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤純一	4. 巻 32
2. 論文標題 公共的な物」の劣化にどう対応するか?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市とガバナンス	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SAWAI, Keiichi	4. 巻 -
2. 論文標題 An Intellectual-Historical Biography of Ogyu Sorai	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 W.J. Boot・Takayama Daiki (ed):The Philosophy of Ogyu Sorai , Springer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤井啓一	4. 巻 31
2. 論文標題 西周と儒学・国学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北東アジア研究	6. 最初と最後の頁 59-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Karina Korostelina, Yuji Uesugi	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 The impact of symbolic boundaries on perceptions of relations between Japan and South Korea	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 National Identities	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14608944.2020.1723513	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 土佐弘之	4. 巻 48 (5)
2. 論文標題 気候正義の政治：そこにはノン・ヒューマンも含まれるのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 154-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上杉勇司・浅野豊美・新井立志・梅森直之	4. 巻 21
2. 論文標題 国際シンポジウム「和解学創成へ向けて」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ワセダアジアレビュー	6. 最初と最後の頁 104 - 111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林聡明	4. 巻 93
2. 論文標題 M.L. オズボーンの捕虜教育経験と貫戦史 (Trans-War History) としての心理戦 (韓国語)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 梨花史学研究	6. 最初と最後の頁 103-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林聡明	4. 巻 19
2. 論文標題 M.L. オズボーンの捕虜教育工作と「貫戦史」としての心理戦	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 インテリジェンス	6. 最初と最後の頁 38-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土佐弘之	4. 巻 194
2. 論文標題 序論 体制移行と暴力：世界秩序の行方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土佐弘之	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 Global Constitutional Order and the Deviant Other: Reflections on the Dualistic Nature of the ICC Process	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Relations of the Asia Pacific	6. 最初と最後の頁 45-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野尻英一	4. 巻 5
2. 論文標題 The problem of "the real" and "history" for Fredric Jameson : Toward a shift from literary criticism to social theory	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Osaka Human Science	6. 最初と最後の頁 157-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松谷基和	4. 巻 827
2. 論文標題 三・一運動における「キリスト教徒」と「教会」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 44 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KOROSTELINA, Karina and UESUGI, Yuji	4. 巻 11
2. 論文標題 Perception of Korean Reunification among Japanese Experts: The Collective Frame Approach	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田大学高等研究所紀要	6. 最初と最後の頁 6 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎稔	4. 巻 1132
2. 論文標題 未完の問いとしての「ヘイドン・ホワイトの問題」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 170-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土佐弘之	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 Global constitutional order and the deviant other: reflections on the dualistic nature of the ICC process	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Relations of the Asia-Pacific	6. 最初と最後の頁 45 - 70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上杉勇司	4. 巻 45(2)
2. 論文標題 国家建設と平和構築をつなぐ『折衷的平和構築論』の精緻化に向けて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野尻英一	4. 巻 18
2. 論文標題 フレドリック・ジェイムソンにおける 歴史 と 現実界 の問題：批評から社会理論への助走	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会理論研究	6. 最初と最後の頁 4-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 12件 / うち国際学会 18件)

1. 発表者名 UMEMORI, Naoyuki
2. 発表標題 Between nation state and colonial state: the establishment of the police and prison system in Meiji Japan
3. 学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia: Concepts and Approaches (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 UMEMORI, Naoyuki
2. 発表標題 Opening Forum:Engaging Empires through Border-crossing: Taiwan Studies and Beyond
3. 学会等名 North American Taiwan Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梅森直之
2. 発表標題 緊急討論：植民地時代に対する批判的記憶はいかに可能か？
3. 学会等名 グローバルな記憶空間としての東アジア：再現と遂行性 (Representation and Performativity) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 UMEMORI, Naoyuki
2. 発表標題 Competing Modernities in Colony and Metropole
3. 学会等名 Routledge Series on Political Theories in East Asian Context 2nd International Workshop of 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KOYAMA, Shukuko
2. 発表標題 Introducing performing arts to teaching histories and conflict resolution in East Asia
3. 学会等名 The 23rd Asian Studies Conference in Japan
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KOYAMA, Shukuko
2. 発表標題 Applying qualitative research methods in peace and security studies: Its comparative advantages and ethnographic reflections
3. 学会等名 Annual Conference. Canadian Sociological Association
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梅森直之
2. 発表標題 Japan in America/ America in Japan: Some Reflections on Reconciliation Studies
3. 学会等名 St. Andrews University History Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林聡明
2. 発表標題 サンフランシスコ講和条約 + 日韓条約 = 日韓関係、その限界と課題：1950年代初頭の動きを中心に
3. 学会等名 国際シンポジウム「サンフランシスコ体制」の形成：占領から講和へ」日本国際問題研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林聡明
2. 発表標題 Korean Studies at U.S. Universities during the Cold War: The Production of Area or Religion Specific Knowledge and the Role of Private Foundations
3. 学会等名 国際シンポジウム「冷戦與近代東亞工作坊」、國立政治大學（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野尻英一
2. 発表標題 記憶の器 としての主体を越えて：ヘーゲル/デリダの精神哲学より
3. 学会等名 グローバルな記憶空間としての東アジアVer.2（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上杉勇司
2. 発表標題 The Role of Mid-Space Local Bridge-Builders in Hybrid Peacebuilding
3. 学会等名 International Studies Association（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上杉勇司
2. 発表標題 Evaluating the Legitimacy of UN 'Neo-Trusteeship' in Timor-Leste from a Viewpoint of Human Security of the 'Locals'
3. 学会等名 Asian Political and International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上杉勇司
2. 発表標題 Bridging Gaps between Local Ownership and Global Peacebuilding Intervention: A Case Study of Timor-Leste
3. 学会等名 Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 最上敏樹
2. 発表標題 "Global Diplomacy - A Post-institutional Approach"
3. 学会等名 International Conference, A Post-Institutional Approach, Europainstitut, University of Basel (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松谷基和
2. 発表標題 Japanese Christian Missions to Korean in Early Meiji
3. 学会等名 スタンフォード大学東アジア研究所主催研究セミナー
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 梅森 直之	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 452
3. 書名 アボリアとしての和解と正義	

1. 著者名 浅野 豊美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 和解学の試み	

1. 著者名 松谷基和（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 李成市編『東アジアのなかの二・八独立宣言 若者たちの出会いと夢』	

1. 著者名 松谷基和	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 民族を超える教会	

1. 著者名 ジュディス・パトラー、大河内 泰樹、岡崎 佑香、岡崎 龍、野尻 英一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 堀之内出版	5. 総ページ数 492
3. 書名 欲望の主体	

1. 著者名 野尻 英一、高瀬 堅吉、松本 卓也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 自閉症学 のすすめ	

1. 著者名 土佐弘之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 313
3. 書名 ポスト・ヒューマニズムの政治	

1. 著者名 土佐弘之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Rowman & Littlefield	5. 総ページ数 261
3. 書名 "The Pitfalls in the Project of Overcoming Western Modernity: Rethinking the Lineage of the Japanese Historical Revisionism," in Modern Japanese Political Thought and International Relations. edited by Atsuko Watanabe and Felix Rosch	

1. 著者名 野尻英一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 行人社	5. 総ページ数 441
3. 書名 「未来の記憶：哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章」那須正玄・野尻英一共編『哲学の戦場』	

1. 著者名 藤重博美・上杉勇司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 252
3. 書名 「序章 ハイブリッドな国家建設：歴史的背景と理論的考察」、藤重博美・上杉勇司・古澤嘉朗（編）『ハイブリッドな国家建設：自由主義と現地重視の狭間で』	

1. 著者名 上杉勇司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 252
3. 書名 「第4章 国家建設と平和構築をつなぐ「ハイブリッド論」、藤重博美・上杉勇司・古澤嘉朗（編）『ハイブリッドな国家建設：自由主義と現地重視の狭間で』	

1. 著者名 上杉勇司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 252
3. 書名 「終章 「ハイブリッド」という共通軸でみた国家建設とSSRの力学」、藤重博美・上杉勇司・古澤嘉朗（編）『ハイブリッドな国家建設：自由主義と現地重視の狭間で』	

1. 著者名 最上敏樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 607
3. 書名 Chapter 1, Toshiki Mogami “Perpetuum Mobile: Before and After Global Constitutionalism” in T.Suami, A. Peters, D. Venoverbeke, M. Kumm (eds.), Global Constitutionalism from European and East Asian Perspectives	

1. 著者名 田中愛治・齋藤純一・古城佳子・小須田翔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 217
3. 書名 「序論」田中愛治編『熟議の効用、熟議の効果：政治哲学を実証する』	

1. 著者名 土佐弘之	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 321
3. 書名 「移行期正義」山本信人編著（東南アジア地域研究入門，3）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究に関連するイベントや成果については、以下のWEBサイトを通じた情報発信もおこなった。
和解学の創成
<https://www.waseda.jp/prj-wakai/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 聡明 (kobayashi Somei) (00514499)	日本大学・法学部・准教授 (32665)	
研究分担者	岩崎 稔 (Iwasaki Minoru) (10201948)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・名誉教授 (12603)	
研究分担者	上杉 勇司 (Uesugi Yuji) (20403610)	早稲田大学・国際学術院・教授 (32689)	
研究分担者	松谷 基和 (Matsutani Motokazu) (20548234)	東北学院大学・教養学部・准教授 (31302)	
研究分担者	野尻 英一 (Nojiri Eiichi) (30308233)	大阪大学・人間科学研究科・准教授 (14401)	
研究分担者	澤井 啓一 (Sawai Keiichi) (50154141)	恵泉女学園大学・人文学部・名誉教授 (32694)	
研究分担者	小山 淑子 (Koyama Shukuko) (50800827)	早稲田大学・社会科学総合学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	齋藤 純一 (Saito Junichi) (60205648)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	最上 敏樹 (Mogami Toshiki) (70138155)	早稲田大学・政治経済学術院・名誉教授 (32689)	
研究分担者	土佐 弘之 (Tosa Hiroyuki) (70180148)	ノートルダム清心女子大学・国際文化学部・教授 (14501)	2024年所属変更
研究分担者	田中 孝彦 (Tanaka Takahiko) (10236599)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	2017年度のみ参加

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 The IARS (International Association for Reconciliation Studies) invites you to the Second International Conference on Reconciliation Tokyo 2021	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Global Diplomacy: A Post-Institutional Approach	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 グローバルな記憶空間としての東アジアver2: メモリーレジーム/メモリアクティビズム	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 和解学創成へ向けて	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	中山大學	復旦大學		
英国	ケンブリッジ大学			
米国	ジョージタウン大学	ジョージメイソン大学	ケンタッキー大学	
韓国	西江大学			